

●キマワリの幼虫から発生した子実体



湿った斜面の土の中から淡いピンク色の若い子実体が生えているのを見つけましたので、これを掘り起こしてみますと甲虫の仲間であるキマワリの幼虫が現れました。明らかに冬虫夏草の仲間なのですが、未熟で胞子を形成していないため、種の同定は出来ていません。

●キマワリの幼虫から発生した子実体



体節と尾部の構造から、宿主はキマワリの幼虫である事が分かります。なかなか美しい冬虫夏草です。

●クリーニング後の子実体



水洗によりクリーニングした子実体を観察しますと、キマワリの幼虫の頭部から太い柄が生じ、更ここからピンク色の頭部が複数生じていました。熟成が進むと、この頭部に子嚢果が形成され、胞子をつけると思われる。